日本理科教育学会 東北支部大会発表論文集 第61号(2022)

東日本大震災で被災した七郷小児童の証言記録の分析

○舟山遥人，中山慎也
Haruto FUNAYAMA，Shinya NAKAYAMA
宮城教育大学

【キーワード】　防災教育，被災体験，災害アーカイブ，東日本大震災

１　背景と目的

2011 年の東日本大震災を経て，防災教育の強化が求められているが，現在の小学生のほとんどは震災を経験していない。そのため，災害実例を知る機会が必要と筆者は考えている。

仙台市立七郷小学校では，2013 年から 2016 年にかけて文部科学省指定による防災教育の研究開発が行なわれていた。その中の東日本大震災の記録を残す『震災アーカイブ』という活動で，4 人の児童の証言記録を動画として残していた。しかし，これまで証言記録は授業等の教育活動で活用されていない。筆者の調べる限りでは，震災を経験した児童の証言を記録した資料は少なく，教育への活用事例もあまり見られなかった。被災体験のある児童の証言記録を分析し，震災を知らない子どもたちが災害に立ち向かう力を身に付けるための教育活動を提案することを，本研究の目的とする。

２　方法

（１）証言記録について

動画は 2015 年に撮影されており，4 人の児童が震災当時の体験を語っている内容と，その体験についてのインタビューに答える内容からなる。対象の児童は震災当時小学 2 年生であり，撮影時は小学 6 年生であった。また，動画から文字起こしを行なって，分析した。

（２）分析の視点

動画撮影時七郷小学校の教員であり証言記録を作成した村上博基先生に 2022 年 3 月 30 日にインタビューを行なった。その回答に基づき，①地震発生時の自身の状況，②震災当時の家族の状況，③避難について，④津波について，⑤震災を知らない子どもたちに伝えたいこと，の５つの視点から分析を行なった。

３　結果

分析の結果を以下にまとめる。

①地震発生時の自身の状況

家にいた児童，下校途中の児童，学校にいた児童がおり，いつどこで災害が起きるかわからないということが証言記録から読みとれた。

②震災当時の家族の状況

夜まで父親の安否がわからなかった，祖父母と 3 日間連絡が取れなかった，という体験が語られていた。

③避難について

地震と津波により避難を余儀なくされたことで，当たり前だと感じていた日常が失われた状況に恐怖を抱いたことが児童の証言で述べられていた。

④津波について

実際に津波被害を直接目撃した恐怖や，津波による被害の悲惨さに心を痛めたことが語られていた。

⑤震災を知らない子どもたちに伝えたいこと

インタビューでは，4 人の児童に共通して「震災を知らない子どもたちに伝えたいことはなんですか」と質問されていた。それに対し児童は，「自分の命を自分で守るという意識」と「災害に対する備えの重要性」の 2 つの考え方に基づいて回答していた。

４　考察と今後の展望

証言記録から，災害の予測不可能性，震災当時の悲惨な状況，災害に対し必要な力などを読み取ることができた。そのことを踏まえ，震災を知らない子どもたちに向けた証言記録の具体的な活用方法の提案を行ないたい。

参考文献

仙台市立七郷小学校.”平成２８年度研究開発実施報告書（要約）”.文部科学省.
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2017/09/07/1395109_007.pdf,(参照 2022-10-05)

附記

本研究は，JSPS 科研費 JP20K22178 および JP22K02939 の助成を受けた。